



らっきい

「すべての子どもたちに身に付けさせるべき基礎・基本」 ～『とりっこドリル』の活用とあわせて(国語)～



トリリン

本リーフレットは、平成29年3月に告示された新学習指導要領(国語)の指導事項を整理し、「すべての子どもたちに身に付けさせるべき基礎・基本」として、その内容や系統性について確認するために作成しました。また、『とりっこドリル』を有効活用できるよう対応ページも示しています。

すべての子どもたちに確実に基礎・基本を身に付けさせるために、指導者が学習内容や系統性を理解し、見通しをもって指導することが大切です。本リーフレットを充実した授業づくり、授業改善の一助として活用いただきますようお願いいたします。

とりっこドリルの活用例

『とりっこドリル』は県教育センターのホームページからダウンロードできます。
<http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/>

モジュールタイムのプリントとして

問題が1ページにまとまっているので、モジュールタイム(朝学習、昼休憩後の学習、放課後学習等の時間)のプリントとして利用するのに適当な分量です。個々の弱点を補充するために、別々のプリントを課題として配布することもできます。

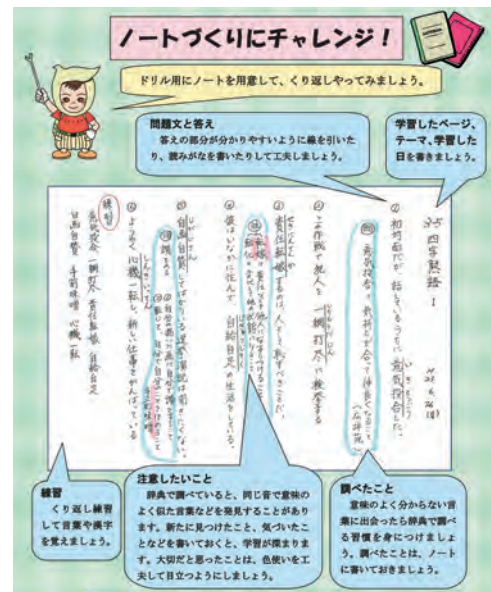
【活用例】

掃除時間終了から5校時開始までのモジュールの時間(10分間)に、国語と算数をそれぞれ週2回ずつ取り組ませる。子ども自身が解き終わったプリントの番号を塗りつぶしていく「がんばりカード」を準備し、『とりっこドリル』へ取り組む意欲を高める。

「とりっこドリル用ノート」を作成し、繰り返し活用

学習した内容を「とりっこドリル用ノート」にまとめていくことで、語彙を増やすための自分専用の参考書を作成することができます。

右図のようなノートづくりの活用例を説明したプリントも作成し、県教育センターHPに掲載していますので、ぜひ参考にしてください。



家庭での自主学習の教材として

プリントを入れるキャビネットを設置するなどして児童生徒が学習したいと思うプリントを自分で選んで家庭に持ち帰りできるようにし、家庭での自主学習の教材として活用することができます。

長期休業の課題プリントとして

ある程度の枚数をまとめて印刷すると、既習事項の復習をするために、長期休業の課題プリントとして利用することができます。

【活用例】〈夏季休業日、冬季休業日、学年末休業日等で〉

既習事項の復習として前学年(または前々学年)のプリントを活用する。

すべての児童に身に付けさせるべき基礎・基本

【知識及び技能】

	(小) 第1・2学年	とりっこドリル	(小) 第3・4学年	とりっこドリル	(小) 第5・6学年	とりっこドリル
言葉の特徴や使い方に関する事項	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。	1-8 1-9	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。		ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。	
	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。		イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。		イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。	
	ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。	1-1～7 1-10～17 2-5～9 2-31～33	ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと、また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。	3-11～14 3-39～42 4-33 4-34 4-40～42 5-27 5-28	ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。	
	エ 第1学年においては、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	1-23～28 1-32 1-33 1-35～38 2-1～4 2-10～14 2-19～21 2-28～30 2-35～38	エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	3-1～6 3-15 3-16 3-25～31 3-38 4-1～3 4-7～19 4-35～39	エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	5-1～7 6-1 6-2 6-11 6-12
	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。	1-29～31 2-15～18 2-22 2-23 2-25～27	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。	3-8～10 3-19～21 3-34～37 4-4～6 4-27	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。	6-3～10
	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。	2-24	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と、接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。	4-23 4-24 4-28 4-29	カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、語や文章の種類とその特徴について理解することができる。	5-10 5-11 6-13
	キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。		キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。	3-22～24 4-20 4-21 4-32	キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。	5-21～23
	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。	2-34	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。	3-32 3-33 4-30 4-31	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。	5-24
					ケ 文章を音読したり朗読したりすることができる。	

※青字は平成29年度全国学力・学習状況調査において課題がみられた問題の関連事項です。

すべての児童に身に付けさせるべき基礎・基本

【知識及び技能】

	(小) 第1・2学年	とりっこドリル	(小) 第3・4学年	とりっこドリル	(小) 第5・6学年	とりっこドリル
話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。		ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。	3-4～7 3-17 3-18 4-7～10 4-25 4-26 5-8 5-9	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	6-24 6-25 5-24 5-25
我が国の言語文化に関する事項	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。 イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。 ウ 書写に関する次の事項を理解し使うことができる。 (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しく書くこと。 (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。 エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。	1-18～22 1-34	ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。 ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。 エ 書写に関する次の事項を理解し使うことができる。 (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。 オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。	4-22 4-43 4-44	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。 ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解することができる。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。 エ 書写に関する次の事項を理解し使うことができる。 (ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 (イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 (ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができる。	5-17～20 6-20～23 5-18～20 5-12～16 6-14～19



『とりっこドリル』には、主に「知識及び技能」に関する問題が掲載されています。

すべての児童に身に付けさせるべき基礎・基本

【思考力、判断力、表現力等】

	(小) 第1・2学年	(小) 第3・4学年	(小) 第5・6学年
A 話すこと・聞くこと	<p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。</p> <p>イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考慮することができる。</p> <p>ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。</p> <p>エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。</p> <p>オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。</p>	<p>ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。</p> <p>イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考慮することができる。</p> <p>ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。</p> <p>エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。</p> <p>オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。</p> <p>イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考慮することができる。</p> <p>ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。</p> <p>エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>オ 互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。</p>
B 書くこと	<p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。</p> <p>オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。</p>	<p>ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。</p> <p>ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。</p> <p>エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。</p> <p>オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>イ <u>筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。</u></p> <p>ウ <u>目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</u></p> <p>エ <u>引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</u></p> <p>オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。</p> <p>カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。</p>
C 読むこと	<p>ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。</p> <p>イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。</p> <p>ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選ぶことができる。</p> <p>エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。</p> <p>オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つことができる。</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。</p>	<p>ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。</p> <p>イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。</p> <p>ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。</p> <p>エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像することができる。5-26(とりっこドリル)</p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。</p>	<p>ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。</p> <p>イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。</p> <p>ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。</p> <p>エ <u>人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。</u></p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>カ <u>文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。</u></p>



「身に付けさせるべき基礎・基本」の系統性を意識して指導することが大切ですね。



すべての生徒に身に付けさせるべき基礎・基本

【知識及び技能】

	(中) 第 1 学年	とりっこ ドリル	(中) 第 2 学年	とりっこ ドリル	(中) 第 3 学年	とりっこ ドリル
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。</p> <p>イ 小学校学習指導要領第 2 章 第 1 節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 字程度から 400 字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>ウ <u>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</u></p> <p>エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句や接続する語句の役割について理解を深めることができる。</p> <p>オ <u>比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。</u></p>	<p>1-1～9</p> <p>1-10～12</p> <p>1-17 1-18 2-23 2-24</p> <p>3-11</p>	<p>ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。</p> <p>イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。</p> <p>ウ 第 1 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。</p> <p>カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。</p>	<p>2-1～11</p> <p>2-12 2-13</p> <p>1-19～27 2-18～22</p> <p>1-28～31</p>	<p>ア 第 2 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けるとして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。</p> <p>エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。</p>	<p>3-1～4 3-7～10 3-18～21 3-23</p> <p>3-5 3-6 3-11 3-12 1-13</p> <p>3-22</p>
話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項	<p>ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。</p> <p>イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。</p>		<p>ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。</p> <p>イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。</p>		<p>ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。</p> <p>イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。</p>	
我が国の言語文化に関する事項	<p>ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。</p> <p>イ 古典には様々な種類の作品があることを知っている。</p> <p>ウ 共通語と方言の果たす役割について理解することができる。</p> <p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うことができる。 (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (イ) <u>漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。</u></p> <p>オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。</p>	<p>1-14～16</p> <p>1-32</p> <p>1-33 1-34 2-27 2-28</p>	<p>ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。</p> <p>イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解することができる。</p> <p>ウ 書写に関する次の事項を理解し使うことができる。 (ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 (イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。</p> <p>エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。</p>	<p>2-14～17</p>	<p>ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。</p> <p>イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。</p> <p>ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。</p> <p>エ 書写に関する次の事項を理解し使うことができる。 (ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。</p> <p>オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。</p>	<p>3-13～17</p> <p>3-23</p>

すべての生徒に身に付けさせるべき基礎・基本

【思考力、判断力、表現力等】

	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
A 話 の こ ん ご う ・ 聞 か せ い	<p>ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。</p> <p>イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。</p> <p><u>ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。</u></p> <p>エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。2-25,26(とりっこドリル)</p> <p>オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。</p>	<p>ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。</p> <p>イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。</p> <p>ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。</p> <p>エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。</p>	<p>ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。</p> <p>イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。</p> <p>ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。</p> <p>エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。</p>
B 書 く こ ん ご う	<p>ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。</p> <p><u>ウ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。</u></p> <p>エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。</p> <p>オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。</p> <p><u>ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。</u></p> <p>エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。</p> <p>オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。</p> <p>ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。</p> <p>エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。</p> <p>オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。</p>
C 読 む こ ん ご う	<p>ア 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。</p> <p><u>イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。</u></p> <p><u>ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。</u></p> <p><u>エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。</u></p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。</p>	<p>ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。</p> <p>イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。</p> <p>ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。</p> <p>エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。</p> <p>オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	<p>ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることができる。</p> <p>イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。</p> <p>エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p>

生徒自身が自主学習プリントとして、家庭学習等で活用できるよう、問題編の他に解答編もHPに公開しています。

